令和２年度　第３回広島市感染症対策協議会

令和２年９月２３日

【日　時】　令和２年９月２３日（水）19:00～20:00
【場　所】　広島市役所 14 階第 7 会議室
【出席者】　小林　正夫、坂口　剛正、大毛　宏喜、石川　暢久、吉岡　宏治、堂面　政俊、
佐藤　貴、増田　裕久、長岡　義晴、松原　啓太、南　心司

１　感染症に関する最近の情報

（１）新型コロナウイルス感染症に係る対応等について（資料１　P1～53）

本市においては、9 月 22 日現在、315 名の新型コロナウイルス感染症の感染者が報告されており、うち、293 名がこれまでに国の定めた退院基準を満たし、22 名が医療機関等において療養を続けている。

令和 2 年 9 月 15 日、国は、「次のインフルエンザの流行に備えた体制整備（全体像）について」として、医療提供体制の整備、検査体制の拡充、検査に必要な個人防護具（以下「PPE」という。）の配布支援について取りまとめ、自治体に通知した。

医療提供体制の整備については、発熱患者等の相談又は診療・検査可能な医療機関を「診療・検査医療機関（仮称）」として県が指定し、発熱患者等が帰国者・接触者相談センターを介することなく、かかりつけ医等の地域で身近な医療機関等を相談・受診し、必要に応じて検査を受けられる体制について、10 月中を目途に整備すること。検査体制の拡充については、同年同日、「新型コロナウイルス感染症に関する検査体制の拡充に向けた指針」が策定され、新型コロナウイルス感染症固有の検査需要とインフルエンザの流行に伴う発熱患者等の検査需要を合算し、ピーク時の検査需要の把握を行うこと。PPE の配布支援については、「診療・検査医療機関（仮称）」に対する国からの PPE の無償配布の方針について示された。

また、令和 2 年 9 月 11 日、国は、季節性インフルエンザワクチンの優先的な接種対象者への呼びかけについて、接種希望者のうち、予防接種法に基づく定期接種対象者である 65 歳以上の高齢者は 10 月 1 日から、それ以外の者については 10 月 26 日まで接種を待ってもらうよう協力依頼を行った。これを受け、本市においても、毎年 10 月 15 日から開始している高齢者のインフルエンザの定期接種を 10 月 1 日から開始することとした。

今後は、広島県や医師会と連携を図り、今冬のインフルエンザ流行期に備えた医療提供体制を速やかに整備するとともに、引き続き、様々な媒体を通じて市民に対してわかりやすい情報提供に努めていく。

（委員意見）

- 引き続き、感染者の発生動向を注視するとともに、県や医師会と連携して今冬の医療体制を速やかに整備してほしい。

（２）ロタウイルスワクチンの定期接種化について（資料１　P54～60）

予防接種関係法令の改正により、令和 2 年 10 月 1 日から、ロタウイルスワクチンが定期接種に追加される。対象者は、令和 2 年 8 月 1 日以降に生まれた者である。

ロタウイルスワクチンは 2 種類あり、それぞれ接種期間や接種回数が異なる。ロタリックスは、生後 6 週から 24 週までの間に 2 回経口接種、ロタテックは、生後 6 週から 32 週までの間

に 3 回経口接種する。なお、０歳児は、月齢が進むと腸重積症のリスクが高まることから、1 回目の接種は、生後 14 週 6 日後までに接種することが推奨されている。

また、同じく令和 2 年 10 月 1 日付けの定期接種実施要領の改正により、異なる種類のワクチン間の接種間隔の規定が変更され、注射生ワクチンを接種してから異なる注射生ワクチンを接種するまでの間隔を 27 日以上とする以外、異なるワクチンの接種間隔は制限がなくなる。

今後、ロタウイルスワクチンの定期接種化については、接種対象者への接種券等の個別送付や、広報紙、ホームページ等により、周知・啓発を行っていく。

（委員意見）

・　医療機関に対し、接種方法等をわかりやすく情報提供してほしい。
・　引き続き、様々な機会を捉えて接種対象者に対して周知・啓発してほしい。

２　８月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料２、３）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

３　全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病　　名	令和２年８月分	令和２年９月分
		報告日 8/3～9/6 現在	報告日 9/7～9/17 現在
２類	結核	11 人 （患者 9 人、潜在性結核 2 人）	
３類	腸管出血性大腸菌	3 人（8/8、8/11、8/12）	
４類	日本紅斑熱	2 人（8/18、8/27）	
5類	ウイルス性肝炎		1 人（9/10）
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2 人（8/24、8/26）	1 人（9/17）
	急性脳炎	1 人（8/24）	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1 人（8/5）	1 人（9/14）
	梅毒	4 人（8/8、8/17、8/27、8/31）	1 人（9/17）
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 人（9/1）	1 人（9/10）
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	59 人 （8/3（10 人）、8/4（5 人）、8/5（6 人）、8/6、8/7(2 人)、8/8（2 人）、8/9（5 人）、8/10（4 人）、8/11（2 人）、8/12（4 人）、8/13、8/15(2 人)、8/18、8/19(4 人)、8/20(3 人)、8/21、8/26、8/27(2 人)、8/28、8/29、9/6）	11 人 （9/7(4 人)、9/11(2 人)、9/12、9/13(2 人)、9/14(2 人)）

（　）は届出日

４　その他《公開》

次回開催予定日　令和２年１１月１６日（月）　14 階第７会議室

【資料】

資料１：最近の感染症情報

資料２：８月の感染症の概要

資料３：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（９月分）

令和２年９月２３日

１　患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、8月は458人で、前月比0.80とやや減少した。

突発性発しんはほぼ横ばい、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎はやや減少、Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は減少した。

(2) 特記事項

● 広島市における新型コロナウイルス感染症の累計報告数は311件(9月21日現在)で、このうち感染者が再び増加し始めた6月30日から9月21日の間に227件の報告があった。

6月30日以降に報告のあった85～292例目の感染者は、20～30歳代が44.2%、40～50歳代が36.1%で、20～50歳代が80.3%を占めていた。また、推定感染経路が判明している148例については、家庭内(28.4%)が最も多く、次いで接待を伴う飲食店(22.3%)、飲食店(14.9%)、職場内(14.9%)、歌を伴うイベントや施設(屋内)(7.4%)の順に多かった。

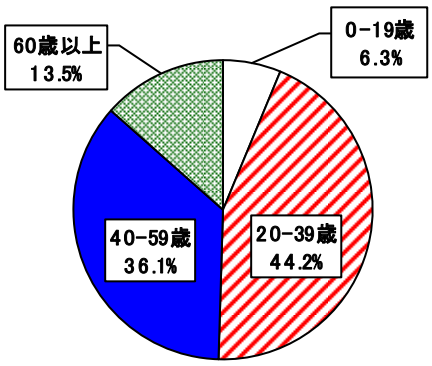
引き続き、感染予防、拡大防止のため、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い、「３密」を避けるなどの対策を徹底し、発熱や咳、倦怠感や味覚・嗅覚障害などの症状がある場合には、外出を控え、かかりつけ医等の医療機関やコールセンターへ連絡・相談することが重要である。

● 日本紅斑熱の患者が2件報告された。日本紅斑熱は、マダニが媒介する日本紅斑熱リケッチアによって起こる感染症で、マダニの活動が活発な春から秋にかけて多く報告される。山や草むらへ入るときは長袖・長ズボンを着用して肌の露出を避け、ダニの付着を防ぐ、屋外活動後は入浴してダニが付着していないか確認するなどの対策をとることが重要である。

広島市における新型コロナウイルス感染症の報告状況

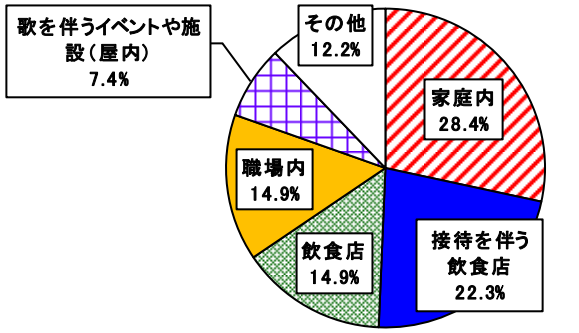
2020 年 6 月 30 日～9 月 7 日(85～292 例目)

感染者の年代



感染者の推定感染経路

（推定感染経路が判明している148例の内訳）



(3) ８月の１類～５類感染症（全数報告）患者発生数

１類感染症：なし
２類感染症：結核 11件（患者：9件、潜在性結核：2件）
３類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 3件
４類感染症：日本紅斑熱 2件
５類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2件
急性脳炎 1件　　侵襲性肺炎球菌感染症 1件
梅毒 4件　　バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件
指定感染症：新型コロナウイルス感染症 59件

(4) 今後の流行予測

新型コロナウイルス感染症の発生動向に注意が必要である。それ以外は該当なし。

２　検査情報

８月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
咽頭結膜熱	アデノウイルス１型	６月	１ 人
その他の消化器疾患（腸重積症）	アデノウイルス 31 型	６月	１ 人
その他の循環器疾患（心筋炎）	ライノウイルス	６月	１ 人
その他の疾患（リンパ節炎）	ライノウイルス	４月	１ 人
その他の疾患（川崎病）	ライノウイルス	６月	１ 人
その他の疾患（不明熱）	ライノウイルス	７月	２ 人

７人の患者から３種類のウイルス７株が検出された。検出ウイルスの内訳は、ライノウイルス５株、アデノウイルス１型、同 31 型各１株であった。

5類感染症定点情報
（令和2年8月解析分）

1．週報対象（第32週～第36週）

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		－	－		10	流行性耳下腺炎		3	0.13	
2	咽頭結膜熱	⇘	33	1.41		11	RSウイルス感染症		－	－	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	⇘	46	1.95		12	急性出血性結膜炎		－	－	
4	感染性胃腸炎	⇘	274	11.74		13	流行性角結膜炎		7	0.89	
5	水痘		12	0.51		14	細菌性髄膜炎		－	－	
6	手足口病		9	0.40		15	無菌性髄膜炎		－	－	
7	伝染性紅斑		－	－		16	マイコプラズマ肺炎		－	－	
8	突発性発しん	⇨	45	1.92		17	クラミジア肺炎		－	－	
9	ヘルパンギーナ		9	0.39		18	感染性胃腸炎（ロタウイルス）		－	－	

2．月報対象（8月）

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症	⇘	51	5.67
2	性器ヘルペスウイルス感染症	⇑	16	1.78
3	尖圭コンジローマ	⇘	9	1.00
4	淋菌感染症	⇨	20	2.22
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	⇗	19	2.71
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		1	0.14
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		－	－

発生記号

前月と比較しておおむね1：2以上の増減	⇑	⇓
前月と比較しておおむね1：1．5～2の増減	⇗	⇘
前月と比較しておおむね1：1．1～1．5の増減	⇗	⇘
ほぼ横ばい（発生件数少数のものを含む）	⇨	

予測記号

流行始まり	流↗
流行中	流→
流行終息傾向	流↘
終息	終

全数把握感染症報告数（令和2年8月分）

第32週～第36週（8月3日～9月6日）報告分

類型		疾患名	広島市		全国	
			報告数	累積	報告数	累積
一類	1	エボラ出血熱	－	－	－	－
	2	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	－
	3	痘そう	－	－	－	－
	4	南米出血熱	－	－	－	－
	5	ペスト	－	－	－	－
	6	マールブルグ病	－	－	－	－
	7	ラッサ熱	－	－	－	－
二類	8	急性灰白髄炎	－	－	－	－
	9	結核	11	93	1,751	11,719
	10	ジフテリア	－	－	－	－
	11	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	－
	12	中東呼吸器症候群	－	－	－	－
	13	鳥インフルエンザ（H5N1）	－	－	－	－
	14	鳥インフルエンザ（H7N9）	－	－	－	－
三類	15	コレラ	－	－	－	1
	16	細菌性赤痢	－	－	2	57
	17	腸管出血性大腸菌感染症	3	15	534	1,774
	18	腸チフス	－	－	－	19
	19	パラチフス	－	1	－	7
四類	20	E型肝炎	－	5	32	307
	21	ウエストナイル熱	－	－	－	－
	22	A型肝炎	－	1	10	97
	23	エキノコックス症	－	－	1	11
	24	黄熱	－	－	－	－
	25	オウム病	－	－	1	5
	26	オムスク出血熱	－	－	－	－
	27	回帰熱	－	－	3	10
	28	キャサヌル森林病	－	－	－	－
	29	Q熱	－	－	－	－
	30	狂犬病	－	－	－	1
	31	コクシジオイデス症	－	－	－	3
	32	サル痘	－	－	－	－
	33	ジカウイルス感染症	－	－	－	1
	34	重症熱性血小板減少症候群	－	2	9	53
	35	腎症候性出血熱	－	－	－	－
	36	西部ウマ脳炎	－	－	－	－
	37	ダニ媒介脳炎	－	－	－	－
	38	炭疽	－	－	－	－
	39	チクングニア熱	－	－	－	3
	40	つつが虫病	－	－	4	111
	41	デング熱	－	1	－	41
	42	東部ウマ脳炎	－	－	－	－
	43	鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9を除く。）	－	－	－	－
	44	ニパウイルス感染症	－	－	－	－
	45	日本紅斑熱	2	2	65	208
	46	日本脳炎	－	－	1	2
	47	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	－
	48	Bウイルス病	－	－	－	－
	49	鼻疽	－	－	－	－
	50	ブルセラ症	－	－	－	1
	51	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	－
	52	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	－
	53	発しんチフス	－	－	－	－
	54	ボツリヌス症	－	－	1	4
	55	マラリア	－	－	4	18
	56	野兎病	－	－	－	－
	57	ライム病	－	－	3	19
	58	リッサウイルス感染症	－	－	－	－
	59	リフトバレー熱	－	－	－	－
	60	類鼻疽	－	－	－	－
	61	レジオネラ症	－	13	263	1,334
	62	レプトスピラ症	－	－	2	3
	63	ロッキー山紅斑熱	－	－	－	－
五類	64	アメーバ赤痢	－	5	57	415
	65	ウイルス性肝炎	－	－	25	173
	66	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	10	258	1,199
	67	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	－	－	7	27
	68	急性脳炎	1	6	30	382
	69	クリプトスポリジウム症	－	－	2	5
	70	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	2	14	101
	71	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	6	87	549
	72	後天性免疫不全症候群	－	5	110	702
	73	ジアルジア症	－	－	3	18
	74	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	2	14	196
	75	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	2	13
	76	侵襲性肺炎球菌感染症	1	12	88	1,174
	77	水痘（入院例に限る。）	－	－	29	245
	78	先天性風しん症候群	－	－	－	1
	79	梅毒	4	42	541	3,864
	80	播種性クリプトコックス症	－	－	15	100
	81	破傷風	－	1	13	72
	82	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	－	－	－	－
	83	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	3	18	91
	84	百日咳	－	39	69	2,683
	85	風しん	－	－	4	89
	86	麻しん	－	－	－	12
	87	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	4	9
指定	88	新型コロナウイルス感染症	59	288	※ 32,953	※ 71,025

※新型コロナウイルス感染症の全国報告数は、厚生労働省ホームページから引用（空港検疫及びチャーター便帰国者を除く）